

2026. 2.10

TOYOBO
Beyond Horizons

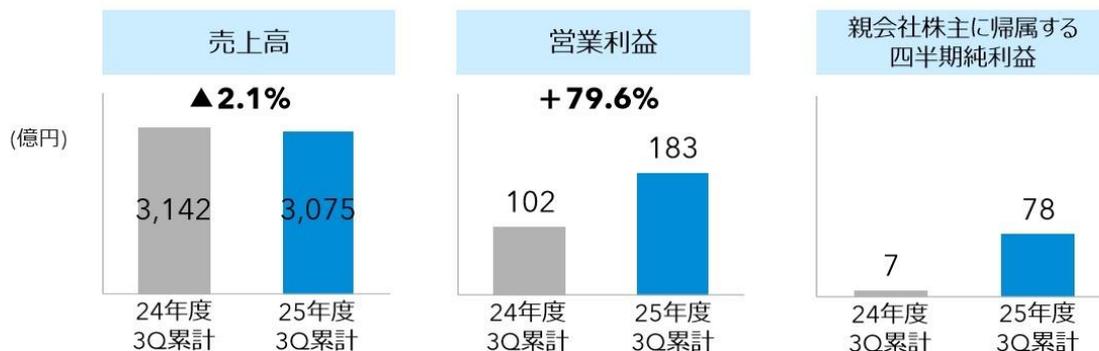
2025年度 第3四半期 決算説明

東洋紡株式会社
執行役員 CFO 管理部門統括
斧 泰三

おはようございます。斧でございます。本日は弊社の決算説明会にご参加いただきありがとうございます。また、平素は弊社をお引き立ていただいておりますことあわせてお礼を申し上げます。それでは25年度第3四半期決算について説明いたします。

第3四半期累計実績

工業用フィルムは堅調持続、包装用フィルムの収益改善も加わり、増益。
営業利益は 183 億円、四半期純利益は 78 億円



2026年3月期 通期予想

包装用フィルム、医薬、不織布マテリアルなどの収益改善、および工業用フィルムの需要堅調を踏まえ、
営業利益 240 億円、当期純利益 85 億円に上方修正

2

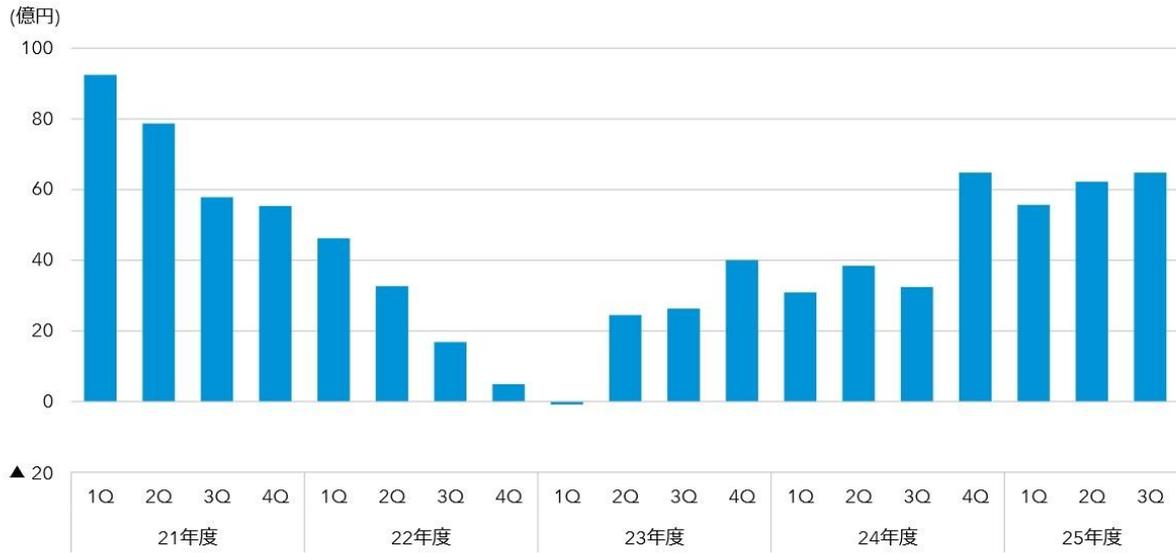
まず、決算のポイントでございます。当第3四半期累計は、中段のグラフにありますとおり、売上高は 3,075 億円、2.1%の減収となりました。営業利益は 183 億円、前年同期比 81 億円、79.6%の増益となりました。また四半期純利益は 78 億円、71 億円の増益となりました。

営業利益は大幅な増益となりましたが、その要因は、工業用フィルムの堅調持続、包装用フィルムの収益改善です。また、営業利益の増益に加えて、営業外費用等の減少により、四半期純利益も大幅な増益となりました。

この第3四半期累計業績を踏まえ、通期の業績予想は、包装用フィルムをはじめとする要改善事業の回復および工業用フィルムの堅調な需要を踏まえ、営業利益は 2025 年 11 月公表値に対し、+10 億円の 240 億円、当期純利益は +20 億円の 85 億円に、それぞれ上方修正いたします。

(参考) 四半期別営業利益推移

TOYOB0



3

四半期別の営業利益の推移でございます。23年度の1Qを底にして着実に回復していることが見てとれます。

	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減	
			金額	率
売上高	3,142	3,075	▲ 67	▲2.1%
売上総利益	711	766	+55	+7.7%
(率)	22.6%	24.9%	-	-
営業利益	102	183	+81	+79.6%
(率)	3.2%	5.9%	-	-
営業外損益	▲ 46	▲ 24	+22	-
経常利益	55	158	+103	+186.2%
特別損益	▲ 13	▲ 41	▲ 28	-
非支配株主に帰属する四半期純利益 (控除)	27	17	▲ 11	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	7	78	+71	-
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	271	362	+91	+33.4%
EPS (円)	8.2	88.7	-	-
ROE* <small>* 年換算ベース、 (四半期純利益×4/3)÷期首・期末平均自己資本</small>	0.5%	5.2%	-	-
減価償却費	170	179	+10	+5.8%
設備投資	344	222	▲ 122	▲35.5%
研究開発費	109	104	▲ 5	▲4.8%

決算サマリー、PLでございます。売上高は3,075億円、67億円の減収となっておりますが、24年度に行った子会社の売却や事業休止の影響を受けています。

売上総利益は766億円、55億円の増益でした。利益率に換算すると、24.9%ということで、前年同期比2.3ポイント改善しています。価格の改定および原価低減によるスプレッドの改善、また、不採算商材からの撤退等の効果と認識しています。

営業利益は183億円、81億円の増益でした。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は78億円、71億円の増益でした。

営業外損益と特別損益の内訳は、次のページでご説明いたします。

EBITDAは362億円、営業利益が改善したこともあり91億円の増加でした。

設備投資は222億円、122億円減少しました。大型先行投資が続いていましたが、おおむねピークアウトいたしました。

営業外損益・特別損益

TOYOBO

営業外損益 内訳

(億円)

	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減
受取補償金	5	0	▲ 5
その他	16	23	+6
営業外収益 計	22	23	+1
支払利息	15	21	+6
その他	53	26	▲ 27
営業外費用 計	68	47	▲ 21
営業外損益 計	▲ 46	▲ 24	+22

特別損益 内訳

(億円)

	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減
関係会社株式売却益	15	-	▲ 15
その他	1	-	▲ 1
特別利益 計	16	-	▲ 16
減損損失	10	2	▲ 7
固定資産処分損	18	14	▲ 4
事業構造改善費用	-	4	+4
割増退職金	-	12	+12
退職給付制度改定損*	-	9	+9
その他	1	-	▲ 1
特別損失 計	29	41	+12
特別損益 計	▲ 13	▲ 41	▲ 28

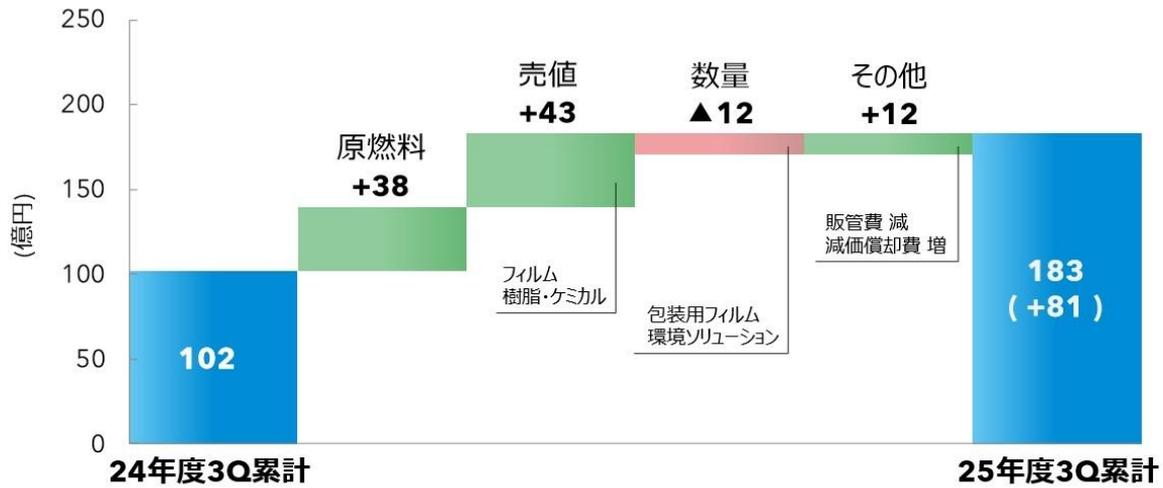
*一部の連結子会社において退職給付制度の一部を廃止

5

営業外損益・特別損益の内訳でございます。まず営業外損益ですが、営業外費用のその他のところで、前年度に災害関係費等の一過性費用が発生しましたが、今期は発生しませんでした。

特別損益は、特別損失において、例年発生している固定資産処分損が14億円発生しました。また、当社もしくは子会社で行った転身支援による割増退職金、一部の子会社における企業年金制度の廃止による退職給付制度改定損も発生しました。

営業利益の増減要因



	24年度				25年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
為替レート (円/US\$)	156	148	152	152	144	147	154
国産ナフサ (千円/kl)	79	77	73	74	65	64	66

営業利益の増減要因分析でございます。24年度の3Q累計が102億円、それに対し、今期が183億円、この差81億円の増益分について、原燃料、売値、数量、その他で分析をしています。

原燃料因は、38億円の増益効果と見ています。国産ナフサ価格は25年度1Q、2Q、3Qを平均すると、おおむね6万5,000円/kl程度で推移しました。前年同期は、7万円/kl台の後半でしたので、1万円/kl強下がっています。この影響により、38億円の増益と分析しました。

売値因は、43億円の増益効果と分析しました。これまでの原燃料高騰分は、24年度までにおおむね価格転嫁ができたと考えており、今年度は、期初から価格改定の効果がフルに寄与しました。

一方で、物流費、人件費等々の固定費のコスト上昇分については、まだ価格転嫁は不十分と認識しています。引き続き、お客様に、価値に見合った価格の理解を求めていきたいと考えています。

数量は、12億円の減益と見ています。包装用フィルムが、食品の小売価格の値上げの影響を受け、足元の荷動きが低下しています。

その他は、12億円の増益効果を見ていますが、主には販管費の圧縮、コストの削減の効果です。

	(B)		(A)	(億円)
	24/3末	25/3末	25/12末	増減 (A)-(B)
総資産	6,070	6,178	6,168	▲ 10
現預金	338	286	246	▲ 40
売上債権	1,028	1,062	952	▲ 110
棚卸資産	1,220	1,190	1,333	+143
有形固定資産	2,815	2,965	3,013	+48
純資産	2,301	2,320	2,409	+89
自己資本	1,970	1,953	2,036	+83
うち利益剰余金	703	690	733	+44
非支配株主持分	331	367	373	+6
有利子負債	2,492	2,679	2,657	▲ 21
D/E レシオ	1.26	1.37	1.31	-
D/E レシオ (資本性調整後) *	-	1.15	1.10	-

* 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

7

決算サマリー、BSでございます。総資産は、6,168億円、前期末比10億円減少しています。売上債権が952億円となり、110億円減少しました。全社的に売上債権の圧縮に取り組んでいる成果が発現してきたと理解しています。

一方で棚卸資産は、前期末比143億円増加しました。包装用フィルムの荷動きの低調等々の悪化要因があり、4Qで生産調整を含めしっかりと対応していきます。

利益剰余金は733億円、44億円増加しました。当期純利益78億円から配当金の支払い35億円を引いた結果です。

有利子負債は21億円減少し2,657億円でした。設備投資がピークアウトしたことにより、フリー・キャッシュ・フローがプラスに転じた影響で、削減できました。

その結果、D/Eレシオは1.31倍、ハイブリッドファイナンスの資本性を調整した後で1.10倍となり、改善傾向にあります。

今後、運転資金の圧縮を進めてさらなるキャッシュ・フローの改善、ひいては財務体質の健全化に努めてまいります。

決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益		
	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	24年度 3Q累計	25年度 3Q累計	増減
フィルム	1,249	1,300	38	129	+90
ライフサイエンス	257	248	15	▲ 3	▲ 18
環境・機能材	835	779	56	54	▲ 3
機能繊維・商事	713	662	1	6	+5
不動産・その他	88	86	18	20	+2
消去・全社	-	-	▲ 26	▲ 22	+4
合計	3,142	3,075	102	183	+81

8

決算サマリー、セグメント別でございます。フィルムが大きく増益となり、逆にライフサイエンスが18億円の減益となり苦戦をしました。詳細はセグメントごとに説明をいたします。

(億円)

	24年度			25年度			3Q累計増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	828	421	1,249	865	435	1,300	+51	+4.1%
営業利益	30	8	38	86	42	129	+90	+235.6%
(率)	3.6%	2.0%	3.1%	10.0%	9.7%	9.9%	-	-
EBITDA	78	33	111	136	68	204	+93	+83.5%

包装用フィルム

- 食品価格高騰の影響を受けて荷動きは悪化も、新設備の生産性改善を進め、収益が改善

工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、販売が拡大

9

フィルムでございます。51億円の増収、90億円の増益と、増収増益でした。

包装用フィルムは、食品価格高騰の影響を受け、荷動きが悪化しましたが、価格改定の効果により増収となりました。加えて、新設備の生産性も向上しました。

工業用フィルムは、液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF”が引き続き堅調に推移しました。テレビの販売台数は横ばいですが、画面の大型化が進んでおり、面積ベースでは市場が拡大しています。セラミックコンデンサ用離型フィルムの販売も拡大しました。

(億円)

	24年度			25年度			3Q累計増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	172	85	257	165	83	248	▲9	▲3.6%
営業利益	9	6	15	1	▲4	▲3	▲18	-
(率)	5.3%	6.8%	5.8%	0.9%	-	-	-	-
EBITDA	25	14	39	21	6	27	▲12	▲30.8%

バイオ

- 診断薬用原料酵素は販売が堅調に推移
診断薬用試薬は中国市況の悪化により販売が低調

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は、販売が堅調に推移も、新工場の立上げに遅れ

医薬

- 製品価格の改定により、収益性が改善

ライフサイエンスでございます。9億円の減収、18億円の減益でした。

バイオは、診断薬用原料酵素の受注は国内および欧米を中心に堅調に推移しました。診断薬用試薬は中国の政策変更の影響を受け販売が低調でした。一方、原料の影響を含む工場の生産性低下の影響がありました。

メディカルは、人工腎臓用中空糸膜の受注は堅調に推移しました。ただし、秋田県の大館に建設した一貫生産工場の立ち上げが遅れており、収益に十分に寄与できていません。25年度3Qに一部販売を開始し、今後は段階的に操業度を上げていきます。

医薬は、受託案件の獲得の増加、および製品価格の改定により、収益は改善に向かっています。4Qには受託案件が集中しており、生産が本格化します。黒字化に向けて計画どおり進捗しています。

(億円)

	24年度			25年度			3Q累計 増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	552	283	835	507	272	779	▲ 56	▲ 6.8%
営業利益	34	23	56	31	23	54	▲ 3	▲ 4.7%
(率)	6.1%	8.0%	6.7%	6.0%	8.5%	6.9%	-	-
EBITDA	56	34	90	53	34	87	▲ 3	▲ 2.9%

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、海外向けの自動車用途の販売が増加
- 工業用接着剤“バイロン”は、塗料・接着用途や電子材料用途の販売が増加

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、EV市場減速の影響により、LIBS*製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少
- 不織布材料は、国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善

*リチウムイオン電池セパレーター

環境・機能材でございます。56億円の減収、3億円の減益でした。

樹脂・ケミカルは、エンジニアリングプラスチックの海外の自動車用途での販売が堅調に推移しました。製品価格の改定も進みました。工業用接着剤“バイロン”は、国内の接着用途での販売が増加しました。海外の電子材料用途での販売も増加しました。価格改定の効果もありました。

環境・ファイバーは、環境ソリューションが世界的なEV市場減速の影響を受け、リチウムイオンバッテリーセパレーターの製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少しました。

不織布材料は、国内の生産体制の見直しが進み、収益は改善傾向です。

(億円)

	24年度			25年度			3Q累計増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	479	233	713	444	218	662	▲51	▲7.1%
営業利益	1	▲0	1	2	4	6	+5	-
(率)	0.2%	-	0.1%	0.4%	1.9%	0.9%	-	-
EBITDA	14	6	20	15	12	27	+7	+33.0%

衣料繊維

- 中東向け特化生地は、強い需要に加えて円安の影響もあり、販売が増加
- スポーツ用途は、国内生産拠点を集約

エアバッグ用基布

- 自動車生産は回復基調。一層のコストダウンにより、収益性が改善

12

機能繊維・商事でございます。51億円の減収、5億円の増益でした。

衣料繊維は、中東向けの特化生地が、強い需要に加え円安の効果もあり、販売が増加しました。スポーツ用途は、国内の生産拠点の集約により収益性が改善しました。

エアバッグ用基布は、自動車の生産が回復基調にあり、タイの原糸工場の認証が進み、操作性が改善しました。今後、一層のコストダウンによる収益性の改善を図っていきます。

2025年度の事業環境見通し

TOYOBO

* 前回見通しに対し、○：改善・拡大、－：変化なし、▲：悪化・減少

セグメント	事業	2025年8月時点 見通し	2025年11月時点 見通し		2026年2月時点 見通し	
			対8月*		対11月*	
フィルム	包装用	前年度並みの需要	▲	荷動きが鈍化	－	
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは前年度並みの需要	－		－	
		MLCCはAIサーバー向けを中心に需要拡大	－		－	
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	▲	中国市場の競争激化	－	
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	－		－	
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車用途は米国相互関税の影響懸念	－		－	
		電子材料用途は需要回復基調	－		－	
	環境・ファイバー	VOC回収装置はEV化減速の影響継続	－		－	
		不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続	－		－	
機能繊維・商事	エアバッグ	アジアの減少に加え、米国相互関税の影響懸念	－		－	
共通		国産ナフサ価格は低下傾向	○	国産ナフサ価格は低下傾向	－	

2025年11月時点の見通しから、変化なし

13

事業環境の見通しでございます。25年度2Qの決算発表で想定した事業環境との比較を示しています。包装用フィルムとバイオは、事業環境をやや厳しく認識しています。一方、国産ナフサ価格は低下傾向が続いており、見通しは25年11月時点から変更していません。

2025年度 業績見通し

TOYOB0

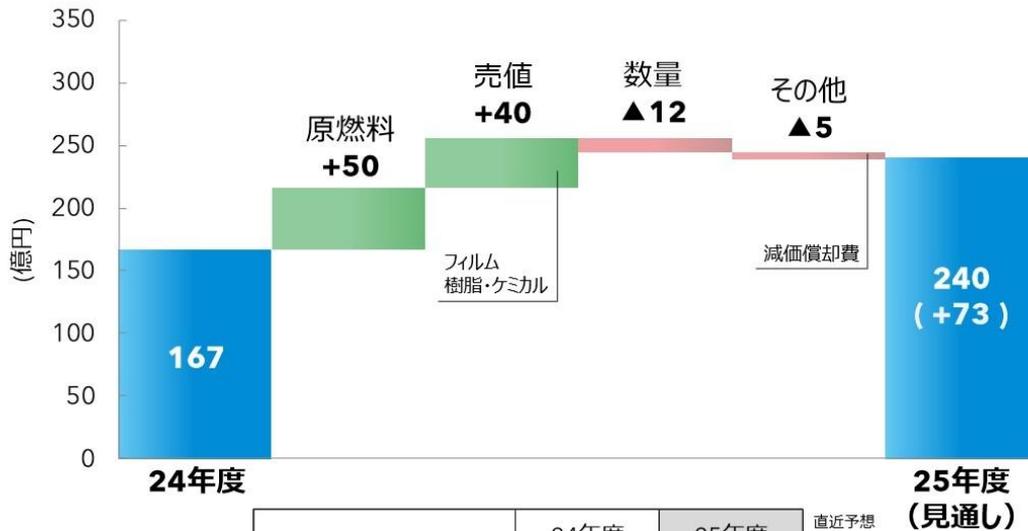
包装用フィルム、医薬、不織布マテリアルなどの収益改善、および工業用フィルムの需要堅調を踏まえ、営業利益 240 億円、当期純利益 85 億円に上方修正

	24年度		25年度		増減		直近予想 (25/11) (億円)
	実績	上期	下期	見通し	金額	率	
売上高	4,220	2,040	2,260	4,300	+80	+1.9%	4,250
営業利益	167	118	122	240	+73	+44.1%	230
(率)	3.9%	5.8%	5.4%	5.6%	-	-	5.4%
経常利益	106	101	94	195	+89	+84.1%	175
特別損益	▲ 34	▲ 30	▲ 17	▲ 47	▲ 13	-	▲ 56
親会社株主に帰属する 当期純利益	20	57	28	85	+65	+324.3%	65
EBITDA	394	236	249	485	+91	+23.2%	475
EPS (円)	22.7	65.0	31.4	96.4	-	-	73.7
減価償却費	227	118	127	245	+18	+7.9%	245
設備投資	432	160	150	310	▲ 122	▲ 28.2%	310
研究開発費	143	68	82	150	+7	+5.2%	150

14

2025年度の通期業績見通しでございます。包装用フィルムをはじめ要改善事業の収益改善、および工業用フィルムの堅調な需要を踏まえ、各利益の見通しを見直しました。営業利益は、10億円上方修正をして240億円、経常利益は20億円上方修正をして195億円、当期純利益は20億円上方修正をして85億円と見通しています。

営業利益の増減要因



	24年度	25年度	直近予想 (25/11)
為替レート (円/US\$)	152	151	149
国産ナフサ (千円/kl)	76	65	64

通期の営業利益の増減要因分析でございます。通期の営業利益見通し 240 億円は、前年度比 73 億円の増益となります。

原燃料因は、50 億円の増益効果を見込んでいます。国産ナフサの前提価格は、今期 6 万 5,000 円/kl と見通しており、燃料の石炭等の価格低下も含めた分析をしています。

売値因は、従前は 35 億円と見通していましたが、フィルム、樹脂・ケミカル等の足元の価格の改訂状況を踏まえ、40 億円に見直しました。

数量因は、12 億円の減益影響と見通しています。包装用フィルムの荷動きが低調にあること、メディカルの新工場が遅れていることを織り込んでいます。

その他因は、減価償却費の増加、コストダウン等を加味し、5 億円の減益影響と見通しています。

セグメント別見通し

TOYOBO

売上高	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減	直近予想 (25/11)		対25/11予想 通期増減	(億円)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期		下期	通期		
フィルム	828	840	1,668	865	905	1,770	+102	845	1,710	+60	
ライフサイエンス	172	171	343	165	195	360	+17	205	370	▲ 10	
環境・機能材	552	556	1,108	507	603	1,110	+2	603	1,110	0	
機能繊維・商事	479	501	981	444	496	940	▲ 41	496	940	0	
不動産・その他	60	60	120	58	62	120	+0	62	120	0	
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
合計	2,092	2,129	4,220	2,040	2,260	4,300	+80	2,210	4,250	+50	

営業利益	24年度 実績			25年度 見通し			通期 増減	直近予想 (25/11)		対25/11予想 通期増減	(億円)
	上期	下期	通期	上期	下期	通期		下期	通期		
フィルム	30	39	69	86	59	145	+76	34	120	+25	
ライフサイエンス	9	11	20	1	9	10	▲ 10	24	25	▲ 15	
環境・機能材	34	46	80	31	56	87	+7	56	87	0	
機能繊維・商事	1	4	5	2	9	11	+6	9	11	0	
不動産・その他	12	14	26	12	10	22	▲ 4	10	22	0	
消去・全社	▲ 16	▲ 17	▲ 33	▲ 15	▲ 20	▲ 35	▲ 2	▲ 20	▲ 35	0	
合計	69	97	167	118	122	240	+73	112	230	+10	

16

セグメント別の見通しでございます。全社で240億円に見直したことに對し、セグメント別営業利益も足元の状況を見て見直しています。

フィルムは、145億円と、25年11月の予想に對し、25億円の増加を見通しています。包装用フィルムの足元の荷動きは悪化していますが、交易条件の改善、新機台を含めた生産性の改善が進んでいます。また、工業用フィルムの“コスモシャインSRF”の堅調は引き続き持続し、セラコン用離型フィルムの販売も拡大しています。

一方でライフサイエンスは、25年11月の予想に對し、若干引き下げをし、10億円と見通しています。バイオの診断薬用原料酵素は販売堅調ですが、コスト高の影響を受け足元では苦戦をされており、メディカルの人工腎臓用中空糸膜は、販売は堅調ですが大館の工場の立ち上げが遅れています。

その他、環境・機能材、機能繊維・商事、不動産等は、従前の見通しを据え置いています。

以上簡単ではありますが、決算の説明とさせていただきます。今回修正いたしました利益目標を達成し、投資家の皆様との信頼関係をより強固なものとしていきたいと考えています。

引き続きご支援をよろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

補足

17

セグメント別情報

(億円)

売上高	24年度					25年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
フィルム	421	407	421	420	1,668	446	419	435
ライフサイエンス	81	91	85	86	343	80	85	83
環境・機能材	281	272	283	273	1,108	254	253	272
機能繊維・商事	240	239	233	268	981	219	225	218
不動産・その他	29	31	29	32	120	30	28	28
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,052	1,040	1,051	1,078	4,220	1,029	1,011	1,035

営業利益	24年度					25年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
フィルム	15	15	8	31	69	40	46	42
ライフサイエンス	4	5	6	5	20	2	▲0	▲4
環境・機能材	13	21	23	23	80	15	16	23
機能繊維・商事	2	▲1	▲0	5	5	1	1	4
不動産・その他	5	7	6	8	26	5	7	7
消去・全社	▲7	▲9	▲10	▲7	▲33	▲7	▲8	▲8
合計	31	38	32	65	167	56	62	65

18



東洋紡自動車飾件(常熟)有限公司 (“TAC”)	中国	2026年2月	保有株式を譲渡
Toyobo Industrial Material (Thailand) Ltd. (“TIM”)	タイ	2026年3月~	清算手続き開始予定
Toyobo Industrial Materials America, Inc. (“TIMA”)	米国	2026年9月~	清算手続き開始予定

今後：一貫生産体制を構築しているタイの拠点からグローバル市場へ製品を供給

■ 環境格付け機関CDP 2025年調査において、2分野で最高評価「Aリスト」に選定

- ・ CDP：企業や自治体の環境への取り組みを調査・評価する国際的な格付け機関
- ・ 「気候変動」、「水セキュリティ」の2分野において、最高評価「Aリスト」に選定
- ・ 2分野同時の「Aリスト」選定は今回初
- ・ 岩国事業所の燃料転換によるGHG削減、RO膜*の海水淡水化プラントへの採用による水不足解消への貢献など、国内外の取り組みと情報開示が評価された



* 逆浸透膜 (RO: Reverse Osmosis)

■ LGBTQ+に関する取り組み指標「PRIDE指標2025」で「ブロンズ」獲得

- ・ 性的マイノリティ (LGBTQ+) に関する取り組みを評価する指標
- ・ 「同性パートナーシップ制度」の新設など社内制度の拡充、社内での理解促進や制度整備の取り組みが評価
- ・ 2024年度「ゴールド」獲得に続き、2025年度「ブロンズ」を獲得



中期経営計画 4月6日（月）（予定）

- 報道機関向け 説明会
- アナリスト・機関投資家向け 説明会

当社ウェブサイト「株主・投資家情報」にて、説明資料を掲載予定

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

TOYOBO
Beyond Horizons

© TOYOBO CO., LTD. All rights reserved.